

# 武蔵野



武蔵野支局 〒180-0006  
 武蔵野市中町1の13の1 3F  
 電話 0422(51)3131  
 FAX 0422(51)3133  
 musasino@yomiuri.com  
 都内版編集室 電話03(3217)1465・1466  
 江東支局 電話03(3631)6116  
 立川支局 電話042(523)4477  
 ホームページ www.yomiuri.co.jp/local/

購読は **0120-4343-81**

【広告】読売Palette 03(6272)9027  
 【折込チラシ】 0120-03-4343  
 【読売旅行】 03(5550)0666

5月19日(木曜日)  
 旧 4月19日<仏滅>

あすの暦

通日 139  
 月齢 18.3  
 (正午)



—東京標準—  
 満潮 5.51  
 20.22  
 干潮 0.46  
 13.06  
 (中潮)

未完の大河小説「青春の門」(1969年)は、作者の五木寛之(32年)と同様に福岡から上京した大学生の成長物語です。ただし、五木が生まれたのは「筑後」であり、主人公の故郷は「筑豊」です。実体験に基づいて故郷を描くと悲劇となり、それは五木の考える小説ではありませんでした。エッセイ集「風に吹かれて」などによると、五木は福岡県に生まれ、生後間もなく朝鮮

## 文人の武蔵野

# 故郷への思い 随所に

## 五木寛之 ②



「青春の門」の舞台となった西東京市東伏見

半島に渡り、4回の転校を経験します。平壤第一中学校に入学した年に日本が敗戦し、父は虚脱状態になり、さらにソ連軍が進駐してきた9月、母が死去します。抑留生活が続く中、46年(昭和21年)、戒厳令下の平壤からソ連軍のトラックを買収して集団脱出。38度線を越えて米軍によ

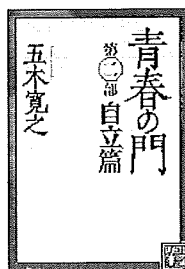
る日本人難民キャンプにたどりつき、さらなる抑留生活を経て47年(昭和22年)、15歳の春に仁川から博多に引き揚げます。引き揚げ者にとっての外地(朝鮮)は心のふるさとですが、戦後は覆われた場所(旧植民地)となります。他方で内地(祖国)の生まれ故郷(筑後)は、一度離郷した者には冷たく異国も同然でした。二重の故郷喪失が描かれることはありませんでしたが、「青春の門」の各場面からは、悲劇的な原体験と無縁ではないと思われる「ふるさと」想像(創造)の契機が読みとれます。物語は新宿や高田馬場などを主な舞台として進みますが、主人公がボクシングの特訓を受けるために東伏見(現在の西東京市)に居を移す場

面があります。何度か「武蔵野」と呼ばれますので、東伏見周辺は五木にとっての武蔵野だったのでしょうか。作中では武蔵野の日々が文武両道の「武」を支え、かりそめのふるさとを創造します。(武蔵野大教授、むさし野文学館館長・土屋忍)

### おすすめの1冊

## 「青春の門 第二部 自立篇」(五木寛之)

1970年代初めに「週刊現代」に連載された分が「立志篇」としてまとめられ、その後改訂されたのが「自立篇」です。主人公の大学生は、体育の授業で出会った風変わりな講師にボクサーとしての資質を買われ、メニュー通りの特訓を受けることを条件に居候の身となります。武蔵野での共同生活を通して、ともに悩みます。



(講談社文庫)